

小児がん拠点病院 現況報告書

令和元年9月1日時点について記載

✓チェック欄
に未入力なし

病院名	三重大学医学部附属病院												
よみがな	みえだいがくいがくぶふぞくびょういん										✓		
郵便番号	〒	514-8507									✓		
住所	三重県	津市江戸橋2-174									✓		
よみがな	つしえどばし										✓		
電話(代表)	059-232-1111										✓		
FAX(代表)	059-231-5074												
e-mail(代表)													
HPアドレス	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/												
診療科	開設診療科数	33									✓		
	診療科名(具体的に記載)	内科、消化器・肝臓内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、循環器内科、外科、消化器外科、移植外科、呼吸器外科、乳腺外科、心臓血管外科、小児外科、整形外科、産婦人科、小児科、精神科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、形成外科、病理診断科、救急科、緩和ケア内科、リウマチ膠原病内科									✓		
外来診療受付時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	00	分	～	17	時	00	分	✓
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
外来診療時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	30	分	～	17	時	00	分	✓
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
休診日	毎週 土・日曜日、その他(祝日、年末年始(12/29～1/3))										✓		
初診時の予約	一部の診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
初診時の紹介状の要否	一部の診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
病床数	総病床数	685	床								✓		

診療実績 (平成30年1月1日～12月31日)

年間新入院患者数 ※1	1,683	人	✓
年間新入院小児がん患者数 ※1	219	人	✓
年間新入院患者数に占める小児がん患者の割合	13.0	%	
小児がん入院患者数 ※2	219	人	✓
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	6,070	日	✓
小児がん入院患者における再発患者数 ※3	7	人	✓
外来小児がん患者数 ※4	2,175	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	11	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※5	2	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※5	27	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	11	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※6	4	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関数	3	機関	✓

※1 18歳以下を対象とする。年間新入院患者数は総数を計上する。

※2 入院患者数は延べ数で計上する。なお、同一患者が当月中に2回入院した場合には2件とし、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。

※3 18歳以下を対象とする。初回治療後に再発もしくは病態が増悪した入院患者数を延べ数で計上する。初回治療入院中に再発もしくは病態が増悪した場合も計上する。

※4 診断時18歳以下の診断例とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※5 診断時18歳以下の診断例とし、総数を計上する。

※6 診断時に18歳以下であった患者の総数を計上するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

がんに関する専門外来の名称

小児血液外来、長期フォローアップ外来

✓

届出された先進医療の状況

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

別紙1

職員数

総数(事務職員を含む)

1,458 人

人数 うち常勤(※)

医師

461 449

歯科医師

18 18

薬剤師

48 45

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

保健師
 看護師
 准看護師
 理学療法士
 作業療法士
 視能訓練士
 言語聴覚士
 義肢装具士
 診療放射線技師
 臨床検査技師
 衛生検査技師
 臨床工学技士
 管理栄養士
 栄養士
 社会福祉士
 精神保健福祉士
 介護福祉士
 保育士

2	1
629	561
4	1
10	10
3	3
7	7
5	4
0	0
41	41
62	62
62	54
24	24
10	8
0	0
10	10
3	2
0	0
18	14

みなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 専門医
 日本小児血液・がん学会 指導医
 日本小児血液・がん学会 暫定指導医
 日本小児血液・がん学会 認定外科医
 日本小児外科学会 専門医
 日本小児外科学会 指導医
 日本小児科学会小児科 専門医
 日本小児神経学会 小児神経専門医
 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
 日本病理学会 病理専門医
 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
 がん治療認定医機構 がん治療認定医
 がん治療認定医機構 暫定教育医
 日本放射線腫瘍学会 認定医
 日本緩和医療学会 緩和医療専門医
 日本緩和医療学会 緩和医療認定医
 日本看護協会 がん看護専門看護師
 日本看護協会 小児看護専門看護師

4	4
3	3
4	4
2	2
4	4
2	2
19	19
1	1
13	13
9	9
6	6
44	43
18	18
0	0
1	1
1	1
3	3
1	1

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

日本看護協会 地域看護専門看護師
 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
 日本看護協会 緩和ケア認定看護師
 日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師
 日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
 日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師
 日本臨床細胞学会 細胞検査士
 日本医学放射線学会 医学物理士
 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師
 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士
 一般社団法人 日本病態栄養学会/
 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士
 一般社団法人日本人類遺伝学会
 及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー
 一般社団法人日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー
 チャイルドライフスペシャリスト
 ホスピタルプレイスペシャリスト

0	0
2	2
1	1
0	0
0	0
4	4
3	3
1	1
3	3
8	8
1	1
2	2
3	3
1	1
1	1
0	0
2	2
0	0

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

1 診療体制		A : 必須 B : 望ましい - : 参考	はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない				
(1) 診療機能							
① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供							
ア	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	8	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	専門とするがんについて別紙2に記載すること。		別紙2		9		
イ	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めており、カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。	A	はい	(はい/いいえ)	10	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	カンサーボードの開催回数（平成30年1月1日～12月31日）	-	56	回	11	<input checked="" type="checkbox"/>	
	ウ 小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)	12	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。	-	はい	(はい/いいえ)	13	<input checked="" type="checkbox"/>	
	長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙3に記載すること。		別紙3		14		
エ	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)	15	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況）について別紙4に記載すること。		別紙4		16		
オ	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。	A	はい	(はい/いいえ)	17	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カ	治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。	B	はい	(はい/いいえ)	18	<input checked="" type="checkbox"/>	
	生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙5に記載すること。		別紙5		19		
キ	保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	20	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 薬物療法の提供体制							
ア	薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。	A	はい	(はい/いいえ)	22	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙6に記載すること。		別紙6		23		
③ 緩和ケアの提供体制							
ア	小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	25	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

チェック欄に未入力なし

Aの充足状況

	緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙8に記載すること。		別紙8		27		
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	28	<input checked="" type="checkbox"/>	
	緩和ケア外来について別紙9に記載すること。		別紙9		29		
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に開催している。	A	はい	(はい/いいえ)	30	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	28	回	31	<input checked="" type="checkbox"/>	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	32	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	Webサイトに掲載		33		
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	34	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	35	<input checked="" type="checkbox"/>	
	緩和ケア病棟について別紙10に記載すること。		別紙10		36		
④ 病病連携・病診連携の協力体制					37		
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	38	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	地域の医療機関との連携協力体制について別紙11に記載すること。		別紙11		39		
イ	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	40	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ウ	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	41	<input checked="" type="checkbox"/>	
エ	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)	42	<input checked="" type="checkbox"/>	
⑤ セカンドオピニオンの提示体制					43		
	小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	44	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙12に記載すること。		別紙12		45		
⑥ その他					46		
	小児がん患者の親へのケアを実施している。	-	はい	(はい/いいえ)	47	<input checked="" type="checkbox"/>	
(2) 診療従事者					48		
用語の定義: 専任:当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。 専従:就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。					49		
① 専門的な知識および技能を有する医師の配置					50		

ア 放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。

A 人 1人以上

	放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	10	人	52	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	11	人	53	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	11	人	54	✓	○
	薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	11	人	55	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	6	人	56	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	6	人	57	✓	
ウ	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	3	人	58	✓	○
	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	3	人	59	✓	
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	1	人	60	✓	○
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人	61	✓	
	緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	3	人	62	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	63	✓	
	受講率	-	100.0	%	64		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	2	人	65	✓	
	受講率	-	66.7	%	66		
	小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	14	人	67	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	7	人	68	✓	
	受講率	-	50.0	%	69		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	11	人	70	✓	
	受講率	-	78.6	%	71		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、小児がん患者の主治医や担当医となることは想定されないが、主治医等から診察依頼を受けた場合や当直業務などで小児がん患者に対する診療を行うことがある者の人数。	-	211	人	72	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	192	人	73	✓	
	受講率	-	91.0	%	74		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	2	人	75	✓	
	受講率	-	0.9	%	76		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、病理診断医や放射線診断医など、小児がん患者との日常的な対面は想定されない者の人数。	-	22	人	77	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	15	人	78	✓	
	受講率	-	68.2	%	79		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	80	✓	
	受講率	-	0.0	%	81		
	施設に所属する初期臨床研修2年目から初期臨床研修修了後3年目までのすべての医師の人数。	-	33	人	82	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	27	人	83	✓	
	受講率	-	81.8	%	84		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	85	✓	
	受講率	-	0.0	%	86		
	病院長はPEACE(成人の緩和ケア研修会)を修了している。	-	はい	(はい/いいえ)	87	✓	
	病院長はCLIC(小児の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	88	✓	

エ 病理診断に携わる医師の人数。

- 8 人 89

	病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	6	人	1人以上	90	✓	○
	病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	6	人		91	✓	
② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置								
	ア 放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	7	人	1人以上	93	✓	○
	放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	7	人		94	✓	
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	4	人	1人以上	95	✓	○
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	4	人		96	✓	
	イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	3	人		97	✓	
	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	3	人	1人以上	98	✓	○
	ウ 緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	3	人		99	✓	
	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	3	人	1人以上	100	✓	○
	緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	2	人		101	✓	
	緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	3	人		102	✓	
	エ 細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	7	人		103	✓	
	オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	6	人		104	✓	
	うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	2	人		105	✓	
	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士(特に医療ソーシャルワーカー)、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	7	人		106	✓	
	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	3	人		107	✓	
	小児科領域に関する専門的知識を有する社会福祉士の人数	-	4	人		108	✓	
	医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	2	人		109	✓	
③ その他								
	ア 小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)		111	✓	
	拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数(放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい/いいえ)		112	✓	○
	学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい/いいえ)		113	✓	
	論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい/いいえ)		114	✓	
(3) 医療施設								
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置								
	ア 放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい/いいえ)		117	✓	○
	イ 集中治療室を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)		118	✓	○
	集中治療室を設置している場合、一般向けの特集集中治療室(ICU)の数	-	6	床		119	✓	
	集中治療室を設置している場合、小児専門の特集集中治療室(PICU)の数	-	0	床		120	✓	

ウ 小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい/いいえ)	121	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況について別紙13に記載すること。		別紙13		122		

	小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙14に記載すること。		別紙14	123		
	小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	98回	124	<input checked="" type="checkbox"/>	
② 敷地内禁煙等						
	敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。	A	はい (はい/いいえ)	126	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	敷地内は全面禁煙である。	-	はい (はい/いいえ)	127	<input checked="" type="checkbox"/>	
(4) 診療実績						
	① 小児がんについて年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい (はい/いいえ)	129	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	② 固形腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい (はい/いいえ)	130	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	③ 造血器腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい (はい/いいえ)	131	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	診療実績等について別紙2および別紙15に記載すること。		別紙2・別紙15	132		
(5) その他						
	① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。	A	はい (はい/いいえ)	134	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。	-	はい (はい/いいえ)	135	<input checked="" type="checkbox"/>	
	特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	-	はい (はい/いいえ)	136	<input checked="" type="checkbox"/>	
	② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。	A	はい (はい/いいえ)	137	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。	-	はい (はい/いいえ)	138	<input checked="" type="checkbox"/>	
	日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。	-	はい (はい/いいえ)	139	<input checked="" type="checkbox"/>	
	③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。	A	はい (はい/いいえ)	140	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。	-	はい (はい/いいえ)	141	<input checked="" type="checkbox"/>	
	配置している上記研修会を受講した医師の人数	A	1人	142	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数	-	3人	143	<input checked="" type="checkbox"/>	
	(配置していない場合)令和元年度中に講習を受講する予定である。	-	(はい/いいえ)	144		
2 研修の実施体制						
	小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。	A	はい (はい/いいえ)	146	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。		別紙16	147		
3 情報の収集提供体制						
(1) 相談支援センター						
	小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。	A	はい (はい/いいえ)	150	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	Webサイトに掲載		151		
相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。		別紙17		152		
相談支援センターの状況について別紙18に記載すること。		別紙18		153		
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙19に記載すること。		別紙19		154		
① 「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	155	✓	○
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	156	✓	○
③ 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	157	✓	○
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)	158	✓	
小児がん患者団体等との連携について別紙20に記載すること。		別紙20		159		
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)				160		
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	161	✓	○
アの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	5	件	162	✓	
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	163	✓	○
イの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	0	件	164	✓	
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	165	✓	○
ウの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	0	件	166	✓	
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	167	✓	○
エの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	183	件	168	✓	
エのうち、アピアランスに関する相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	4	件	169	✓	
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	170	✓	○
オの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	5	件	171	✓	
カ 小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	172	✓	○
カの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	6	件	173	✓	
キ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	174	✓	○
キの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	3	件	175	✓	
ク AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	(はい/いいえ)	176	✓	○
クの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	24	件	177	✓	
ケ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	178	✓	○
ケの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	3	件	179	✓	
コ その他相談支援に関することを行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	180	✓	○

この相談件数(平成30年1月1日～12月31日)

1 件

181

(2)院内がん登録

①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい/いいえ)	182	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②	院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	183	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③	院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	1	人 1人以上	184	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	うち専従者の人数	-	1	人	185	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい/いいえ)	186	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④	院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい	(はい/いいえ)	187	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤	適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい	(はい/いいえ)	188	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥	院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい	(はい/いいえ)	189	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦	院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい	(はい/いいえ)	190	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	191	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3)診療実績、診療機能等の情報提供

	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	192	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	Webサイトに掲載		193	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(4)その他

	地域住民に対する病院、相談支援センター、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟(設置されているのみ)に関するアピールを別紙21に記載すること。		別紙21		194	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--	--	--	------	--	-----	-------------------------------------	--------------------------

4 臨床研究に関すること

	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい/いいえ)	195	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	196	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)-1	進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	197	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	Webサイトに掲載		198	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)-2	進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	199	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	Webサイトに掲載		200	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3)	参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	はい	(はい/いいえ)	201	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	Webサイトに掲載		202	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)	203	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	(西暦XXXX年XX月)	204	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	別紙22	209	
(5) 臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙22に記載すること。 臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B はい	210	(はい/いいえ) <input checked="" type="checkbox"/>

臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	8	人	211	<input checked="" type="checkbox"/>	
臨床研究の問い合わせ窓口について別紙23に記載すること。		別紙23		212		
臨床研究の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	20	件	213	<input checked="" type="checkbox"/>	
臨床試験以外の臨床研究実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	8	件	214	<input checked="" type="checkbox"/>	
治験の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	3	件	215	<input checked="" type="checkbox"/>	
5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備						
(1) 保育士を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	217	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保育士の人数	-	2	人	218	<input checked="" type="checkbox"/>	
保育士のうち常勤の人数	-	0	人	219	<input checked="" type="checkbox"/>	
(2) 病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)	220	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい/いいえ)	221	<input checked="" type="checkbox"/>	
特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	(はい/いいえ)	222	<input checked="" type="checkbox"/>	
病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい/いいえ)	223	<input checked="" type="checkbox"/>	
高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい	(はい/いいえ)	224	<input checked="" type="checkbox"/>	
(3) 退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)	225	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育支援、復園・復学支援の状況について別紙24に記載すること。		別紙24		226		
(4) 子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	227	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい/いいえ)	228	<input checked="" type="checkbox"/>	
(5) 家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい/いいえ)	229	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
部屋数	-	6	部屋	230	<input checked="" type="checkbox"/>	
長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	はい	(はい/いいえ)	231	<input checked="" type="checkbox"/>	
長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙25に記載すること。		別紙25		232		
(6) 家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)	233	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(7) 患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)	234	<input checked="" type="checkbox"/>	
6 PDCAサイクル						
(1) 自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい/いいえ)	236	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
把握・評価の方法、改善策等について別紙26に記載すること。		別紙26		237		
(2) これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	238	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	Webサイトに掲載		239		
7 医療安全体制						
(1) 組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	241	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	242	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) 医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。

A

はい

(はい/いいえ)²⁴³



(4) 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい (はい/いいえ)	244	✓	
当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。					
① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	A	はい (はい/いいえ/-)	246	✓	○
② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	A	はい (はい/いいえ/-)	247	✓	○
③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	A	はい (はい/いいえ/-)	248	✓	○
(5) 医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	A	はい (はい/いいえ)	249	✓	○
医療安全体制について別紙27に記載すること。					
		別紙27	250		

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(実施件数は平成31年4月1日～令和元年7月31日)

先進医療窓口情報							
先進医療の実施		(実施しています／実施していません)					
先進医療A	問い合わせ窓口	(窓口があります／窓口がありません)					
	窓口名						
	技術名						
	電話番号	代表		内線			
		直通					
	対象となる病名・病状						
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)				件		
問い合わせ窓口		(窓口があります／窓口がありません)					
窓口名							
技術名							
先進医療B	電話番号	代表		内線			
		直通					
対象となる病名・病状							
実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)				件			

各種小児がんの情報

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

小児がんについての対応状況を記載してください。

※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。

※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。

※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

✓チェック欄
に未入力なし

小児脳腫瘍

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

OK

集学的治療の実施状況 (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年実績(あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容					
					体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			治療内容	治療実績	医師の専門分野			
		状況											見出し		アドレス					
1	脳神経外科	16	16	状況	○	×	×	×	×	×	×				地域医療の中核としての役割を果たしており、脳血管内治療に関しては本邦における中心的施設の一つです。	三重大学脳神経外科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/no-shinkei/	掲載あり	掲載なし	掲載あり
				実績	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし					三重大学大学院医学系研究科脳神経外科	http://www.medic.mie-u.ac.jp/neurosurgery/	掲載あり	掲載なし	掲載なし
2	放射線科	4	4	状況	×	×	○	○	○	○	×			放射線治療の全般に担当しており、他病院からの紹介では放射線治療を単独で行うこともありますが、多くの場合、集学的治療の一環として他科と協力して治療にあたっています。	三重大学病院放射線治療科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/linac/	掲載あり	掲載なし	掲載なし	
				実績	なし	なし	あり	あり	あり	なし	なし					三重大学大学院医学系研究科放射線医学教室	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/radio/	掲載なし	掲載なし	掲載なし
3	小児科	17	10	状況	×	○	×	×	×	×	×			三重県内で唯一の日本小児血液・がん専門医研修施設です。	三重大学病院小児科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/shounika/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
				実績	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし					小児科学	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/pediatrics/	掲載あり	掲載なし	掲載あり
4				状況												http://				
				実績														http://		
5				状況												http://				
				実績														http://		
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名										治療内容						
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				非定型奇形腫瘍/ラブroid腫瘍、退形成性上衣腫、毛様細胞性星細胞腫、髄膜腫、髄芽腫、胚細胞腫、グリオーマ																

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数		治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日											各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ										
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法			陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容							
								体外照射	IMRT	小線源治療		他の治療(1)		他の治療(2)	他の治療(3)	見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野				
1 眼科	13	13	状況	○	○	○	×	×	×	×	×									全ての小児の眼疾患に対応します。	三重大学病院眼科学	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/ganka/	掲載あり	掲載なし
			実績	あり	あり	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし												
2 小児科	17	10	状況	×	×	×	○	×	×	×	×								三重県内で唯一の日本小児血液・がん専門医研修施設です。	三重大学病院小児科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/shounika/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし												
3 放射線科	4	4	状況	×	×	×	×	×	○	○	×	×							放射線治療を全般に担当しており、放射線治療を単独で行うこともありますが、多くの場合、集学的治療の一環として、他科と協力して治療にあたっています。	三重大学病院放射線治療科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/linac/	掲載あり	掲載なし	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり	なし	なし												
4			状況																		http://			
			実績																					
5			状況																		http://			
			実績																					
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名								治療内容												
他の治療(1)																								
他の治療(2)																								
他の治療(3)																								
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				網膜芽細胞腫																				

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数		治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日											各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ								
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術				化学療法	放射線療法		陽子線治療	重粒子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容						
			切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術		体外照射	小線源治療			他の治療(1)		他の治療(2)		他の治療(3)	見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 整形外科	19	4	状況	○	○	○	○	×	×	×	×	×					骨軟部悪性腫瘍、転移性骨腫瘍、関節や脊髄疾患の再手術などに対して、より良い医療を提供できるように努めています。	三重大学病院整形外科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/seikei/	掲載あり	掲載なし	掲載あり
			実績	あり	あり	あり	あり	なし	なし	なし	なし	なし				三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座 整形外科						
2 小児科	20	12	状況	×	×	×	×	○	×	×	×	×			三重県内で唯一の日本小児血液・がん専門医研修施設です。	三重大学病院小児科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/shounika/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
			実績	なし	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし										三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座 小児科学
3 放射線科	4	4	状況	×	×	×	×	×	○	×	×	×			放射線治療を全般に担当しており、放射線治療を単独で行うこともあります。が、多くの場合、集学的治療の一環として他科と協力して治療にあたっています。	三重大学病院放射線治療科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/linac/	掲載あり	掲載なし	掲載あり		
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし										三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座 放射線医学
4			状況															http://				
			実績																	http://		
5			状況																http://			
			実績																	http://		
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください			治療名											治療内容								
他の治療(1)																						
他の治療(2)																						
他の治療(3)																						
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日			横紋筋肉腫、線維肉腫、ユーイング肉腫、骨肉腫																			

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日									各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ			
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法		陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容					
					体外照射	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		治療内容		治療実績	医師の専門分野		
状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	見出し		アドレス		治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 小児外科	4	4	○	○	×	×	×				新生児から乳児、学童、思春期までの外科的治療全般を担当しています。	三重大学病院小児外科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/shounigeka/	掲載あり	掲載なし	掲載あり	
			あり	あり	なし	なし	なし					三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座小児科学学	http://www.medic.mie-u.ac.jp/organization/course/pediatrics/	掲載あり	掲載なし	掲載あり	
2 小児科	20	12	×	○	×	×	×				三重県内で唯一の日本小児血液・がん専門医研修施設です。	三重大学病院小児科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/shounika/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			なし	あり	なし	なし	なし					三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座小児科学学	http://www.medic.mie-u.ac.jp/organization/course/pediatrics/	掲載あり	掲載なし	掲載あり	
3 放射線科	4	4	×	×	○	×	×				放射線治療を全般に担当しており、放射線治療を単独で行うこともあります。が、多くの場合、集学的治療の一環として他科と協力して治療にあたっています。	三重大学病院放射線治療科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/linac/	掲載あり	掲載なし	掲載あり	
			なし	なし	なし	なし	なし					三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座放射線医学	http://www.medic.mie-u.ac.jp/organization/course/radiology/	掲載あり	掲載なし	掲載あり	
4 肝胆膵・移植外科	15	15	○	○	×	×	×				肝悪性腫瘍に対して生体肝移植をおこなっています。	三重大学病院肝胆膵外科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/kantansui/	掲載なし	掲載なし	掲載あり	
			あり	あり	なし	なし	なし					三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座放射線医学	http://www.medic.mie-u.ac.jp/organization/course/hepatobiliary/	掲載なし	掲載あり	掲載あり	
5													http://				
													http://				
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください			治療名							治療内容							
他の治療(1)																	
他の治療(2)																	
他の治療(3)																	
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日			神経芽腫、肝芽腫、副腎皮質癌、ウイルス腫瘍														

小児血液腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするが/×:診療を実施していないが)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			見出し	アドレス		掲載されている内容					
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または臍帯血移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)				治療内容	治療実績	医師の専門分野			
1	小児科	20	12	○	○	○	○	×	×							三重大学病院小児科 三重大学で唯一の日本小児血液・がん専門医研施設です。	三重大学病院小児科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/shounika/	掲載あり	掲載あり
				あり	あり	あり	あり	なし	なし						三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座小児科学		http://www.medic.mie-u.ac.jp/organization/course/pediatrics/	掲載あり	掲載なし	掲載あり
2	放射線科	4	4	×	×	×	×	○	○						放射線治療を全般に担当しており、放射線治療を単独で行うこともあります。が、多くの場合、集学的治療の一環として他科と協力して治療にあたっています。	三重大学病院放射線治療科	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/linac/	掲載あり	掲載なし	掲載あり
				なし	なし	なし	なし	あり	あり							三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座放射線医学	http://www.medic.mie-u.ac.jp/organization/course/radiology/	掲載あり	掲載なし	掲載あり
3																	http://			
4																	http://			
5																	http://			
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名							治療内容									
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫																

長期にわたり診療するための具体的な診療体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙3を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

長期フォローアップ外来の設置: 三重大学医学部附属病院小児科では、1956年から小児がんの診療を開始し、1973年に血液腫瘍専門外来を開設した。さらに1998年からは、小児がんを経験された患者さんが過去に受けた治療内容を把握して、健康管理に役立て、一緒に考えていくことを目的に長期フォローアップ外来を開設している。

【長期フォローアップ外来の体制】:

- ・外来日: 水曜午後に予約制(5人/日)としているが、受診者の利便性や他科との連携のため他の曜日・時間帯にも柔軟に対応している。
- ・担当医師: 日本血液学会専門医・指導医、小児血液・がん学会専門医の資格を持ち、小児がん患者の診療経験豊富な小児科専門医が担当している。
- ・受診対象: 成人期以降の小児がん経験者(三重大学医学部附属病院小児科で治療を受けた人、および他院で治療を受けた人で病気の経過や治療内容についての情報を持参できる人)

・診療内容: 小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、早期発見、早期治療を他診療科と連携して実施している。成長障害や二次がんへの対応をはじめ、医療福祉支援センター(医療ソーシャルワーカー及び臨床心理士)と連携した精神発達遅滞への対応、消化器内科(肝炎)・糖尿病内分泌内科(2016年からは大阪大学・浜松医科大学から内分泌専門医の診療協力開始)や循環器内科(成人病の早期罹患や心筋症)・不妊症(産婦人科・泌尿器科)・精神科(心理的問題)、整形外科、脳外科等とも連携して診療を行っている。遠隔地在住者については、各地域の医療機関との連携もしている。2016年度からは小児トータルケアセンター(看護師及び医療ソーシャルワーカー)とも協力し、事前問診票の作成と運用及び当外来受診患者のデータベース管理を開始した。当科では、小児がん経験者の外来カルテをすべて永久保存し、個人情報管理体制を取った上で診療情報のデータベース化を行うことで、外来担当医が交代しても一貫して診療が継続される体制をとっている。患者への病名告知についても積極的に取り組み、1998年以降の入院患者では、入院後早期に病名告知を含む病気の説明を行う方針をとっている。1998年以前に入院した患者については、長期フォローアップ外来での病気の説明を進め、受診中断者、知的障害等で理解が難しい患者を除く、全ての患者への病気の説明を完了している。この病気の説明と連動して、長期フォローアップ外来受診者に対して、自己管理カルテである「病気のまとめ」の配布を行っている。

・診療実績: 2018年4月～2019年3月にフォローアップ外来を受診した18歳(高校卒業以上の年齢から最高齢は47歳まで)以上の受診者数は220名。男性121名(55%)、女性99名(45%)で、うち37名(男性14名、女性23名)は結婚しており、挙児は19名(男性7名、女性12名)であった。また、平均フォローアップ期間は 19.6 ± 7.01 (3.3～39.8)年であった。

・長期フォローアップに関連した活動: 三重大学医学部附属病院小児科は厚生労働科学研究(がん臨床研究)推進事業「小児がん経験者の長期フォローアップ体制整備に関する研究」班で長期フォローアップ拠点病院14施設の一つで、最も多くの小児がん経験者を診療するモデル病院として活動し、当科長期フォローアップ外来通院者の診療データから全国共通フォローアップ外来データベースの改良・作成に貢献してきた。また、長期フォローアップ外来担当医は、日本小児白血病研究グループ長期フォローアップ委員として、同委員会が実施した長期フォローアップ手帳の配布、各種調査研究にも積極的に参加し、自施設での長期フォローアップ関連研究の成果を学会等で公表している。また、臨床研究(浜松医科大学・大阪大学の小児内分泌医との共同研究、小児がん経験者の大学院生による研究)を継続的に実施している。更に、長期フォローアップ外来受診者を対象にしたサマーキャンプを毎年開催するなど、小児がん経験者の社会的支援にも積極的に取り組んでいる。

・体制の検討等: 2018度には、東海・北陸ブロック内のもう一つの拠点病院である名古屋大学医学部附属病院及び、関東甲信越ブロック内の拠点病院である神奈川県立こども医療センターより依頼を受け、「小児がん長期フォローアップ診療体制に関する意見交換会」を実施し、当科での外来診療見学及び上記体制について説明し、意見交換を行った。

【造血細胞移植フォローアップ外来の体制】:

・2017年12月に小児がん中央機関が主催する「小児がん造血細胞移植チーム研修」に参加し、造血細胞移植を受ける子どもと家族に対し適切な医療を提供できる体制整備、及び小児がん拠点病院の多職種チーム医療の質の向上と機能強化のための知識・技術を習得し、先駆的に造血細胞移植フォローアップ外来の診療体制を構築していく。

・2018年1月から造血細胞移植認定医による造血細胞移植フォローアップ外来を開設し、造血細胞移植後の晩期合併症に悩む患者さんの診療にあたっている。

AYA世代への診療提供体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：三重大学医学部附属病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

AYA世代への診療提供体制(自施設・他施設の成人診療科との連携状況等)について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙4を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

AYA世代の診療体制として、当院小児科では他の診療科との連携に重点をおき集学的治療を行っている。AYA世代に多い骨肉腫やユーイング肉腫の患者では整形外科及び放射線治療科と連携し外科的及びラジオ焼灼治療を行っており、脳腫瘍の患者では脳外科と連携して診断及びマイクロサージャリーを含む最善の治療を提供している。その他、放射線診断科と連携し、向上した画像技術を駆使し正確な診断を行い、放射線治療科とも相談した上で、各腫瘍に対して副作用を軽減したIMRT(強度変調放射線治療)やSRT(定位放射線治療)を行っている。また、整形外科、脳神経外科、放射線治療科及び小児科で定期的にカンファレンスを開き、AYA世代のがん患者にとって、最善と思われる治療方針を検討している。

またAYA世代のがん診療において、A(思春期)世代では性への自覚、同世代との交流、親密な情緒的関係の構築、自立の発達段階にあることに加えて、治療により学業や就労が遅れ、中断させられることで人生設計が狂われる可能性がある。YA(若年成人)世代では、家庭や社会での生活が中心となり、治療による子育てや親の介護などや仕事への影響が不可避である。治療と、仕事、家庭、を成り立たせることが難しいことが多く、精神的ストレスを抱えることが多くなっている。また、AYA世代は、性の成熟とともに生殖機能が活発化する世代であるが、治療による外観の変化や生殖機能の低下が、余命に対する不安と重なり、恋愛に消極的にさせる。その一方、多くの場合、治療により不妊のリスクが伴うため将来の育児希望の検討が必要である。

以上から、2019年6月よりAYAがん診療支援の検討ミーティングをひらき、乳腺外科や腫瘍内科、がん専門看護師、緩和チーム、小児トータルケアと定期的集まり、小児期、壮年期、高齢期から欠けていたAYA世代のがん診療において、診断時から治療後まで心理的・社会的評価を適切に行い、その場面ごとに応じて総合的な支援を行っていくため、評価票での臨床試験準備中である。

高校生・大学生の教育支援においては、ネットなどでの遠隔授業(情報通信技術:ICT(Information and Communication Technology))などが検討開始され、2019年10月には『三重大学病院に入院している高校生の教育支援についての三重大学病院関係者とかがやき特別支援学校緑ヶ丘高等部の合同ミーティング』を開始して、教育機関だけではなく、医療機関による教育制度の理解に加えて、体制づくり(病院側が学習室を用意する、教育相談できるか、主治医が支援できるか協力する)が具体化されようとしている。

造血器腫瘍患者に関しては血液内科と協力して化学療法を行なうとともに、造血細胞移植についても2か月毎にカンファレンスを開催している。造血細胞移植が計画された患者情報については、造血細胞移植前カンファレンス(写真1、2)を開き、関係部署(小児科、血液内科、放射線治療科、歯科口腔外科、高度生殖医療センター、輸血部、薬剤部、リハビリテーションセンター、臨床栄養部、緩和ケアチーム、小児トータルケアセンター、院内特別支援学校など)から医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、検査技師、放射線技師、MSW、臨床心理士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト及び教諭らが一同に会して、各立場から意見交換できる場を設置している。

AYA世代の問題となりうる妊孕性温存に関しても、以前より行われていた精子保存に加えて、2017年7月より当院産婦人科高度生殖医療センターと定期的に勉強会(写真3)を行い、2018年3月より卵巣凍結保存が開始され、現在まで5例で安全に実施された。これらの診療環境に加え、妊孕性温存する若年がん患者の心理支援のニーズの高まりに応えるべく、当院臨床心理士が「がん・生殖医療専門心理士養成講座」を2018年6月から受講しており(2018年12月に資格取得予定)、更なるAYA世代がんの診療提供体制整備の充実に努めている。

他施設との連携としては、「陽子線治療」が必要な場合は筑波大学附属病院や名古屋西部医療センターと、「重粒子線治療」が必要な場合は千葉重粒子線医科学センターや群馬大学附属病院との治療連携を行っている。また、脳腫瘍の活動性を把握するための特殊検査である「メチオニンPET(ポジトロン断層撮影法)」については、木沢記念病院温泉病院と連携して検査を行っている。

高度先進医療としての臨床研究(「弱毒生ポリオウイルスを用いた難治性神経芽腫の新しい治療法」「ハブロー致移植における急性GVHDの予測法の開発」など)や、難治性がん患者の治療法についてのセカンドオピニオンに関しても、他施設から広く受け入れてきた。

AYA世代の交流・勉強の場としては、小児病棟の一角にティーンズルーム、及び、憩いの場としてのリフレッシュスペースを設けている。病棟は夜9時に消灯のため、中学3年生以上の入院患者が消灯以降も勉強、読書、さらにインターネットのできる場所となっている。また、院内には患者図書館が設置され、小説本、マンガの閲覧・貸出し、コンピューター、テレビゲーム、書籍、漫画、DVD、手芸用品等を揃えるとともに、防音パネルを設置し、療育・生活環境整備も行っている。



生殖機能の温存の支援を行う体制

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: **三重大学医学部附属病院**

時期・期間: 令和元年9月1日現在(患者数は平成30年1月1日～12月31日)

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	8
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	20
がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	0

OK

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙5を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 **なし** (あり/なし)

ファイル形式 **Word/Excel/PowerPoint/PDF/その他**

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

当院は、成人のがん拠点病院及び小児がん拠点病院としての役割を担う中で、妊孕性温存について議論を重ね、2015年5月より、当院産婦人科が中心となり、高度生殖医療センターを新たに設置した。同センターにおいて、日本産科婦人科学会より2017年3月にがん患者の卵子凍結・胚凍結が、同年8月にはがん患者の卵巣凍結が認可された。

2018年7月28日には、第1回三重がん・生殖医療研究会セミナー、2019年8月3日4日には第2回三重がん・生殖医療セミナー(資料1、写真1)を開催し、本邦における小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状などについて意見交換を行った。

また、2019年4月より三重県より妊孕性温存療法に助成金が出るようになり、患者様の負担軽減に大きく貢献している(資料2)。更に、2018年3月には小児白血病患者に対して、初めて卵巣凍結を実施し、2019年10月現在までに、小児がん患者での卵巣凍結5例を実施した。

疾患は、急性白血病、横紋筋肉腫、滑膜肉腫などであった。尚、精子凍結は、当院開院以来2019年10月現在までに5例実施した。

小児がん対象患児に対しては、小児科医、生殖医療医、薬剤師、がん専門看護師、がん生殖専門臨床心理士、ソーシャルワーカー、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、胚培養士がチームとなり対応し、月1回のチームカンファレンスを開催している。

尚、小児の精子凍結は、可能な限り男性スタッフが対応し、15歳未満の卵巣凍結の場合は、小児外科医の協力も得て実施している。

当院での医療連携

がん治療医、産科医、小児科医、腫瘍科医、薬剤師、がん専門看護師、がん生殖専門臨床心理士、ソーシャルワーカー、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、胚培養士、小児外科医、産婦人科医、小児科医、腫瘍科医、薬剤師、がん専門看護師、がん生殖専門臨床心理士、ソーシャルワーカー、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、胚培養士

資料1

写真1

資料2

薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

開催された委員会の総件数: 11 OK

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

委員会の名称	化学療法レジメン審査委員会		OK
委員会の開催頻度	凡そ月1回		
委員会のメンバー	職種	役職	
例	医師、看護師、薬剤師	腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長	
1	医師	がんセンター長、外来化学療法部部长、血液・腫瘍内科助教2名、がんセンター助教、呼吸器内科助教、消化管・小児外科准教授、小児科准教授、産科婦人科助教、腎泌尿器外科講師、放射線治療科助教、副病院長(医療安全管理部)	
2	看護師	看護師長、看護師長(医療安全管理部)	
3	薬剤師	薬剤部長、薬剤部准教授、薬剤部薬剤主任、薬剤師(医療安全管理部)	
4	事務職	医事課長	
5			
6			
7			
8			
9			
10			

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数: 18 OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		緩和ケアチーム		
職種	常勤／非常勤	専門分野	資格等	
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師	常勤	緩和ケア科、小児科、麻酔科、精神科神経科	日本緩和医療学会専門医(2019年) 日本麻酔科学会専門医(1990年)
2	看護師	常勤	がん看護	がん看護専門看護師(2009年、2012年) がん化学療法認定看護師(2004年) 緩和ケア認定看護師(2012年)
3	薬剤師	常勤		緩和薬物療法認定薬剤師(2013年)
4	管理栄養士	常勤		管理栄養士(2014年)
5	臨床心理士	常勤		公認心理士取得予定
6	医療ソーシャル・ワーカー	常勤		国立がんセンター主催がん相談指導者 国立がんセンター主催がん相談員研修レベル3修了
7	作業療法士	常勤		
8	鍼灸師	常勤		日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー
9				
10				

OK

OK

緩和ケアチームへの患者紹介の手順

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：三重大学医学部附属病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙8を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

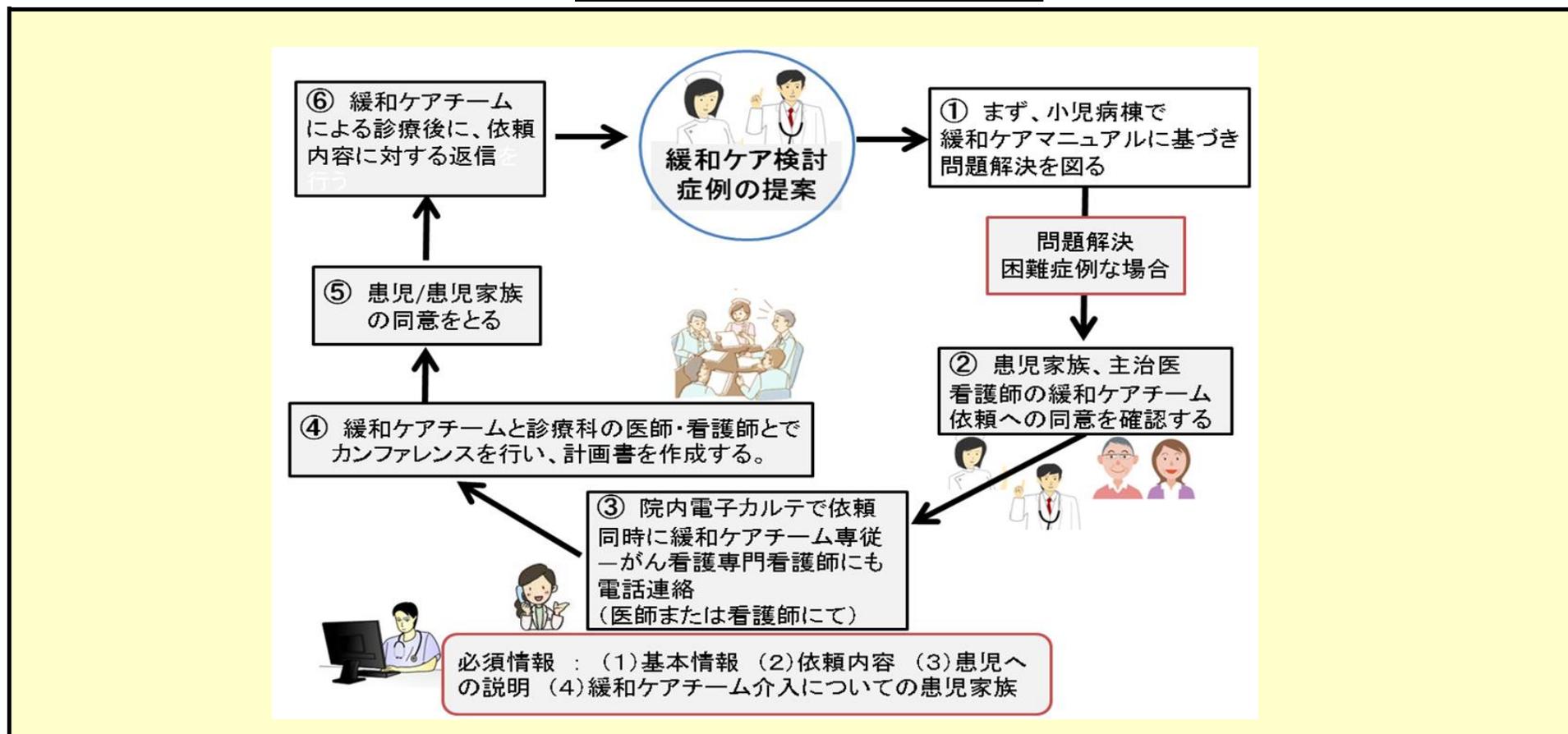
(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK



緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）				はい	
2	緩和ケア外来の名称	緩和ケア外来				
3	担当診療科名	緩和ケア科				
4	主な診療内容・特色	緩和ケア専門の医師による全人的な視点での緩和医療、多職種によるチーム診療xがん性疼痛に関する侵襲的治療				
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ	見出し	三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター			
		アドレス	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/bumon/kanwa_care/ http://www.hosp.mie-u.ac.jp/kanwa-care/kanwa/index.html			
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）				はい	
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）				はい	OK
	窓口の名称	緩和ケアセンター				
	電話	代表	059-232-1111	(内線)	5764	
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）				はい	OK
	窓口の名称	緩和ケア相談窓口				
	電話	代表	059-232-1111	(内線)	5764	

緩和ケア病棟の状況

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟がありません				
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理					
3	小児の入院可否					
4	緩和ケア病棟の形式					
5	緩和ケア病棟の病床数		床			
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し				
		アドレス	http://			
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く					
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人) ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1	

■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
10	窓口の名称									
	電話	代表		(内線)				直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://				
■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
11	窓口の名称									
	電話	代表		(内線)				直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://				
12	緩和ケア病棟の設備	例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室								
13	訪問看護ケアの有無	例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など								

地域の医療機関との連携協力体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名:

時期・期間: 令和元年9月1日現在

地域の医療機関との連携協力体制について自施設の取り組みや今後の予定を記載すること。(例: 診療実績の少ない●●については××病院と協力。●●治療については××病院へ紹介。小児がん患者の在宅医療については●●診療所と連携し、急変時には受け入れることとしている。成人領域については××病院と協力し定期的に情報共有を図っている。)2枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙11を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

当院は、50年以上に亘り、県内唯一の小児がん診断・治療施設としての役割を担っており、県内のみならず隣県からあらゆる小児がん症例を受入れている。

当院の小児がん及びAYA世代を含む若年がん診療・治療に関しては、院内連携体制が整備されており、小児科を中心に、小児外科、脳神経外科・整形外科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、血液腫瘍内科、産婦人科、口腔外科、緩和ケアセンター等とも常に連携し集学的治療が可能となっている。当院で治療できない小児がん疾患はないが、特殊治療設備の必要な陽子線及び重粒子線治療は、それぞれ筑波大学附属病院、名古屋西部医療センター及び千葉重粒子医科学センター、群馬大学附属病院と診療協力体制を組むことで、常に最先端医療の提供が可能であり、小児がん臨床医が育成できる体制が整備されている。

当院での治療終了後の一般的なフォローアップについては、地域基幹病院・プライマリケア医との連携体制が整備されている。当院が長年小児がんを専門に診療及び研究をしてきた歴史的背景から、県内地域基幹病院や診療所に勤務する多くの中堅・ベテラン小児科医は、当院小児病棟での勤務経験を積んでおり、小児がんの基礎知識を有し、連携体制への理解がある。そのため、患児及びその家族にとっても安心して地元地域基幹病院や診療所に受診できる環境にある。更に、地域基幹病院や地元プライマリケア医とは、“情報の共有化”や地区毎の症例検討会・講演会を通して、小児がん診療の教育・啓発を行うことで地域格差をなくし、小児がん診療レベルの維持・向上に繋げている。具体的な“情報の共有化”については、2016年8月より小児がん患者と家族が安心して適切な医療や支援を受けられる環境を整備するために、地域のプライマリケア医と診療情報を共有するための地域連携パス(「わたしのカルテ」(写真1))の運用を開始した。本院及びプライマリケア医の受診時には必ず持参して貰えるよう、子どもが喜ぶキャラクター図柄の入った手提げバッグと共に交付していることから「わたしのカルテ」に対する愛着も芽生えてか、持参忘れもなく順調な運用が図られている。今後も、運用を図る中でパスの内容に改良を加えてより充実したものにし、パス連携に適する患者をよりの確に把握し更なる活用を進めると共に、連携先病院を増やして行く予定である。

また、小児がん患者の長期フォローアップについては、当院では1998年より長期フォローアップ外来を設置し、小児がん経験者の健康管理に加え、晩期合併症の予防・早期発見・治療に取り組んでいる。本外来では、20歳を超えても年1回の定期フォローを心掛け、ここから得られた新たな知見・情報は、速やかに県内外の連携基幹病院とも共有し、小児科領域を超えた疾患への柔軟な対応に生かされている。

その一つの成果として、2018年11月15日、第16回日本小児がん看護学会学術集会において、「学童期以降に小児がんを発症したこどもの退院後の困難」について報告した。また、専門性の高い診療科・医療機関との連携体制を構築し、長期フォローアップ外来での患者支援・指導はもとより、地元地域に必要な医療・相談支援の情報提供も行なっている。また、当院では20年前から全国に先駆けて小児がん患児への病名告知を行い、闘病意欲の向上効果やスムーズな社会復帰などに一定の成果を上げてきた。その他、在宅での医療的ケアが必要な患児や完治が望めない患児及びその家族を対象とした在宅医療の提供や院内外連携体制整備についても取り組んでいる。2009年より多職種(医師、看護師、小児看護専門看護師、薬剤師、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、医療事務、院内教室教諭)で構成された小児在宅医療支援の在り方検討会を立上げ、2013年9月に小児トータルケアセンターを新たに設置した。

全国的には小児がん患者の在宅医療を提供出来る医療資源(在宅支援診療所・プライマリ医、訪問看護ステーション)が不足しているが、三重県では小児トータルケアセンターにおいて、県医師会・看護協会・薬剤師会・歯科医師会・理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会との連携を図るとともに、地域在宅支援診療所・プライマリケア医及び訪問看護ステーションとの実質的連携の窓口となり、在宅医療を必要とする小児がん患者の受入れ可能施設の拡充・啓発を行っている。さらに、2014年度から、小児科医を対象とした「医療実技講習会」及び訪問看護師を対象とした「小児在宅訪問看護研修会」を開催し、がんを含む難病のこどもと家族が、安心して地元地域に戻れる支援体制の整備を



これらの成果の一環として、当センターが2016年1月から2019年6月末までの3年半の間に関わった終末期在宅移行症例は11例で、うち4例はご希望に沿って在宅看取りを実施した。また、2018年9月13日、当院緩和ケアチームが主催で、さいたま赤十字病院緩和ケア診療科 原 敬先生をお招きし、「対人援助・スピリチュアルケアセミナー」を開催した。小児がん及びAYA世代を含むがん診療医を対象にした対人援助のための専門的な応対方法を学ぶ研修会であったが、地域医療機関の小児・AYAがん診療に携わる医師の顔の見える関係づくりともなった。

以上のように、当院では小児がん患者・家族の幅広いニーズに対応できるよう、また、短期的(治す医療)及び長期的(成育医療・長期フォローアップ)視野に立って様々な支援が提供できる診療体制を整備している。

当院は東海・北陸ブロック内の小児がん拠点病院の一つとして、ブロック内小児がん診療病院との連携協力体制整備にも積極的に取り組んでいる。

2016年3月、同ブロック内の小児がん診療病院に対して、院内小児がん多職種診療体制を5つのテーマに絞り(①小児がん診療専門、②緩和ケア、③相談支援、④長期フォローアップ、⑤在宅終末期支援)尋ねたところ、以下の課題が抽出された。

①小児がん自体が希少疾患であるため、こども病院など小児専門病院以外では小児がん専門スタッフを専任・専従で配置することが困難であること、②小児がん緩和の必要性について更なる啓発を促す必要がある一方で、ニーズの少なさから成人を含む緩和ケアの一部として活動せざるを得ない状況であること、③多職種で構成されている施設は少なく、小児がん相談支援体制整備が課題であること、④長期フォローアップのライフステージに沿った、多面的な支援に対応できるように多職種を配置している施設は少なく、また専任・専従配置ができていない現状があり、小児がん患者のトランジションを考える上で同基盤体制整備の充実が望まれること、⑤本チーム構成を持つ施設も少なく、仕事内容に施設間格差が大きく、小児がん終末期在宅移行の困難な状況が推測されること、などである。

同調査結果等を踏まえ、2016年6月から年1回、小児がん診療体制において「多職種連携の重要性の再確認し、関わる職種の人材育成に繋げることを目的に、アウトリーチ型研修会として「小児がん診療体制における東海北陸ブロック多職種連携研修会 in 金沢」(写真2、3)を開催している。研修内容は、基調講演及びランチョンセミナーによる座学講演と事例検討を基にテーマ毎に多施設・多職種によるグループワークを実施している。参加者は、小児がん診療に関わる医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、保育士、教諭等の多職種で、第一回(2016年)は5施設、44名、第二回(2017年)は7施設、65名、第三回(2018年)は9施設、65名、第4回(2019年)は9施設、77名の参加を得た。2019年の基調講演では、当院リハビリテーション部 理学療法士南端翔多さんに「入院中のリハビリテーション」について、当院緩和ケアセンターがん看護専門看護師堀口美穂さんに「化学療法における看護ケア」についてご講演頂いた。参加者からは、非常に有意義な研修会であり、今後も開催されることを希望するという意見が多く聞かれた。このことから、今後も本研修会を、「アウトリーチ型小児がん多職種人材育成プログラム」の一つのモデルとして、継続していく予定である。また、東海北陸ブロックの他に福井県、長野県の小児がん診療施設も対象に加えた多職種研究会として、「中部小児がんトータルケア研究会」がある。当院は2018年9月30日、福井市で開催された「第17回中部小児がんトータルケア研究会」から研究会事務局を担っている。2019年9月28日には名古屋市内で「第19回中部小児がんトータルケア研究会」が開催され、学校におけるがん教育及び小児がんサバイバー医師による小児がん経験者の会(ピアサポート)の重要性についての講演並びに各施設でのユニークな取り組みが発表され、活発な意見交換がなされた。

その他、東海北陸ブロックにおける小児がんに関わる各病院間で更なる情報共有が日常的に図られるよう、名古屋大学病院及び静岡県立こども病院と連携し、「東海北陸ブロック間の多職種連携ネットワーク」を構築し、運用を行っている。加えて、各地域における小児がん診療病院の相談員同士の連携・情報共有を目的として、メーリングリストを作成すると共に東海北陸ブロック小児がん診療病院相談支援部会(第一回:2017年10月29日、第二回:2018年6月30日、第三回:2018年11月10日、第四回:2019年10月27日(開催予定))を開催した。また、2018年2月及び9月、2019年10月にはTV会議システムを利用し、東海北陸ブロックの複数病院間で中部小児がんセミナーを開催し、地域の医療機関との連携協力体制等についても情報交換を行うことができた。更に、小児がん看護研修の充実にも取り組み、当院と名古屋大学医学部附属病院看護部の了解のもと、ブロック内小児がん看護の質の向上と事例検討を行う環境を整えることを目的に、2019年2月2日「第一回東海北陸ブロック小児がん看護研修会」を開催し、9施設、26名の参加を得た(写真4)。2020年2月1日には、ブロック内3つの小児がん拠点病院と協力し、第二回東海北陸ブロック小児がん看護研修会を予定している。



写真2



写真3



写真4

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識 および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：三重大学医学部附属病院

時期・期間：令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン外来	アドレス	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/patient/2ndopinion/		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 (実績)	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載あり	掲載なし	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。

※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄
に未入力な
し

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応不可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK	
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	小児科	○	×	○	×			
2人目	脳神経外科	○	○	×	×			
3人目	放射線科	○	×	×	○			
4人目								
5人目								

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応不可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK	
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	眼科	○	○	×	×			
2人目	小児科	○	×	○	×			
3人目								
4人目								
5人目								

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK	
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	小児科	○	×	○	×			
2人目	放射線科	○	×	×	○			
3人目	整形外科	○	○	×	×			
4人目								
5人目								

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK	
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	小児科	○	○	○	×			
2人目	小児外科	○	○	○	×			
3人目	放射線科	○	×	×	○			
4人目								
5人目								

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	10件以下(月1件程度)	件	OK	
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	小児科	○	×	○	×			
2人目	小児外科	○	○	○	×			
3人目	放射線科	○	×	×	○			
4人目								
5人目								

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

小児がん患者の遊びの場(プレイルーム等)やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場(患者サロン等)について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**2枚以内におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙13を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

小児病棟には、小児がん患者の遊び場として、プレイルームが設置されている(写真1、2)。プレイルームには幼児から小学校の子供たちが遊べるおもちゃ、絵本、本、漫画、テレビ、ゲーム、DVD等が用意されている。毎週1回定期的に、三重大学の学生ボランティアサークル(写真3)によるボーリング大会、クッキング、工作などのリクリエーションを行なっている。また、年1回外来ホールを利用して開催する夏祭りは、入院中および外来通院中の患者家族合わせて100名近くの参加者で賑わいを見せており、患児達の楽しみの行事の一つとなっている。また、病院での闘病生活に少しでも潤いをもたせ、活気あるものにするために、病院外の団体とも連携をしている。2006年より毎月1回、定期的にホスピタル・クラウン協会の訪問(写真4)を受けるとともに、2010年より年に2回、NPO法人わんとほーむのスタッフが来院してアニマルセラピーを実施し、闘病中の小児がん患者の心のケアを行なっている。この他、2016年2月から、(株)中部テレコミュニケーションの協力の下、「げんきのまど」プロジェクトを毎月1回実施している。「げんきのまど」とは、本院に設置した大型モニターと通信ネットワークのことで、水族館・動物園・博物館などからのライブ中継や、夏祭りの遊びなど、リアルタイムにコミュニケーションを取りながら患児達が楽しめるイベントを実施している。患児達は辛い闘病生活の中でも、この時間は病院の外の世界に目を輝かせて、今後も続く治療に立ち向かって行く気持ちの支えとなっている。2017年7月3日(月)には、NPO法人が組織する「音楽とどけ隊」による「こどものサマーミニコンサート」、2018年10月12日(木)にボランティアによる「お琴とフルートの音楽会」、2018年8月30日(木)と2019年8月16日(金)にはボランティア講師による「ドールハウス講座」を開催し、小児がん患者とその家族に癒しと楽しみの時間を提供した。2018年12月11日(火)にボランティアによる「クリスマス音楽会」、2019年6月12日(水)に三重アコーディオン協会による「楽しいアコーディオン演奏会」、2019年10月2日(水)三重フィルハーモニーによる「病氣と闘うこどものための音楽会」も開催した。また2006年より、患者父母の会「ひだまりの会」が年に3回季節の味覚会を計画し、竹の子ご飯、新米、豚汁、天ぷら、おもち、など、病院ではなかなか味わうことのできない、季節を感じる暖かい食事をプレイルームや病室で提供している。闘病中のご家族と、以前に闘病していた経験のあるご家族が、暖かい雰囲気の中、語り合う場となっている。また、小児病棟にはチャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)を3名、保育士を1名配置し、小児がん患者の精神面を含む発達支援も提供している。毎月1回、子供たちのリクエストによる最新映画の上映会を企画したり、保育士によるプレイタイムを毎週1回企画し、おもちゃ作りや化学実験、工作など、様々な年代の子どもたちがプレイルームに集うきっかけになっている。その他、ひな祭り、七夕、ハロウィン、クリスマス会、節分などの病棟行事は、医師、看護師らにも協力してもらい、病棟の子どもたちが季節感を感じながら、病棟でも楽しみをもって生活していくことにつながっている。また、学生ボランティアによるレクリエーション企画運営や、各種ボランティア他団体にはCLSがボランティアコーディネーターとして関わっている。またCLSと病院スタッフ、医学部・看護学部学生により、2007年より年に1回、1泊2日の「おひさまキャンプ」、2010年より年に1回日帰りの「どんぐりキャンプ」を行い、患者家族の交流を図り、様々な相談にも応じている。毎年参加者は150名近くになり、患者、保護者だけでなく、多くの兄弟姉妹も参加し、同胞の病気の理解や医療スタッフとの交流の場となっている。また当院小児科は、年1回開催される“がんの子どもを守る会東海支部”主催の「講演会 & 相談会」を後援している。2017年3月26日(日)には、「当院の小児トータルケアセンターの活動」と題した講演を行うとともに、相談会においても当院スタッフによる対応を行った。また、2016年1月より年に1回、病棟スタッフが“がんの子どもを守る会東海支部”と共同し、子どもを亡くされたご家族が語る場として、遺族会「にじのかい」(写真5)を立ち上げた。ご家族同士が闘病中や亡くなった後の思いを語る場として、貴重な場となっている。

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5





2015年12月からは、「Teens会」を毎月1～2回開催している。この会を開催する目的は、①入院中の中高生が思春期らしい心理・社会的成長発達が進められるよう、また闘病生活のストレスを発散できるよう支援するため、②入院中、自立を促し自分自身と向き合う時間を作るため、③同世代の仲間と集い、Peerサポートのきっかけを作るためである。会では、お菓子パーティー、受験合格お祝い会、たこ焼きパーティー、ゲーム大会などを行っている。担当医師、看護師にも参加し、病室ではふさぎ込んでいることが多かった患児が、この会では元気に話をするなど、毎回、この催しを楽しんでいる光景が見られる。次回の開催を楽しみにしている声が聞こえる状況であり、入院中のAYA世代の患児達にとって大切な会となっている。この会をきっかけに同年代の仲間を知り、お互いの病状や悩みを語り合う姿も見られるようになった。

また、AYA世代の交流・勉強の場として、小児病棟の一角にティーンズルーム(写真6, 7)、及び、憩いの場としてのリフレッシュプレイス(写真8)が設けられている。

ティーンズルームにはまんが、小説、ゲーム、手芸、工作、パソコンなどを常置しており、中学生以上の子どもたちが学校の休み時間のようにワイワイ集ったり、時には静かに落ち着いて過ごしたりする場として利用している。中学3年生以上の入院患者が消灯以降も勉強、読書、さらにインターネットのできる場所ともなっている。

また、院内には患者図書館(写真9)が設置され、小説本、マンガを含め、自由に閲覧ができ、本の貸出しも行なっている。

その他、2016年2月より年2回、「きょうだいの日」と題した催しを行っている(写真10)。小児がんは長期治療が必要となり患児の両親が看病にかかりきりになるために、きょうだい普段から感じている疎外感、不安などネガティブな気持ちを発散させ、また治療中のきょうだいと直接触れ合うことで病気への理解も深めつつ、家族と楽しい時間を共有する場とすることを目的としている。開催当日は、小児科医がぬいぐるみを使って治療の内容を説明したり、病院ウォークラリーで普段知らない病院の中の様子を知ったり、家族と一緒にサンドイッチ作りなどをして楽しんでいる。この取り組みは2016年2月21日の伊勢新聞にも取り上げられた。

また、患者家族が語り合う場として、リボズハウス(写真11, 12)を開設している。リボズハウスは、がんに関する冊子や書籍、インターネット検索可能なパソコン、ウィックの展示、脱毛された患者さん用の帽子等を揃え、がんに関するさまざまな情報を提供している。書籍は貸出しも可能となっている。更にごがん患者やその家族を対象に勉強会や交流会、がん相談会、リラックスヨガ、アロマハンドトリートメント等各種イベントも開催している。



小児がん患者およびその家族が語り合うための場

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

語り合うための場総件数: 98

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員 の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				定期 /不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ /家族のみ /患者・家族		名称	電話番号
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	相談支援センター XXX-XXXX-XXXX直通	
1	がんの子供を守る会講演会・相談会	がんの子供を守る会 東海支部	あり	定期	年 1	小児悪性疾患	参加可	患者・家族	講演会、相談会、長期宿泊施設運営	小児病棟 059-232-1111	
2	ひだまりの会食事会・相談会	事務局	あり	定期	年 4	小児悪性疾患、小児慢性疾患など	参加可	患者・家族	病棟行事(七夕、秋祭り等)、食事会、茶話会など	小児病棟 059-232-1111	
3	おひさまキャンプ	三重大学大学院医学研究科 小児科学分野	あり	定期	年 1	小児悪性疾患、小児慢性疾患など	参加可	患者・家族	小児がん患者及び経験者と家族のためのキャンプ開催	小児病棟 059-232-1111	
4	どんぐりオータムキャンプ	三重大学大学院医学研究科 小児科学分野	あり	定期	年 1	小児悪性疾患、小児慢性疾患など	参加可	患者・家族	小児がん患者及び経験者と家族のためのキャンプ開催	小児病棟 059-232-1111	
5	ひとと樹(小児がん経験者の会)	三重大学大学院医学研究科 小児科学分野	あり	定期	年 4	小児悪性疾患、小児慢性疾患など	参加可	患者・家族	病院の闘病経験者との交流・学習及び闘病経験者への支援等	小児病棟 059-232-1111	
6	続よんちゃんず	ボランティア	あり	不定期	月 4	小児悪性疾患、小児慢性疾患など	参加可	患者・家族	三重大学小児科病棟にて行われる病棟行事、レクリエーション企画	小児病棟 059-232-1111	
7	にじのかい	がんの子供を守る会 東海支部	あり	定期	年 1	小児悪性疾患	参加可	家族のみ	逝去された患児のグリーフケアの一環としての相談会	小児病棟 059-232-1111	
8	ホスピタルクラウン	日本ホスピタルクラウン協会	あり	定期	月 1	小児悪性疾患、小児慢性疾患など	参加可	患者・家族	小児病棟に月に1回2-3名の道化師の方が訪問	小児病棟 059-232-1111	
9	Teens 会	三重大学大学院医学研究科 小児科学分野	あり	定期	月 2	小児悪性疾患、小児慢性疾患など	参加不可	患者・家族	小児病棟で月1から2回入院中の中高生が思春期らしい心理・社会的成長発達が遂げられるようサポートする	小児病棟 059-232-1111	
10	きょうだいの日	三重大学大学院医学研究科 小児科学分野	あり	不定期	年 2	小児悪性疾患、小児慢性疾患など	参加可	患者・家族	長期入院患者がきょうだいと直接触れ合い病気への理解を深め家族と楽しい時間を共有する場	小児病棟 059-232-1111	

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称	患者図書館						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	三重大学医学部附属病院 院内施設・店舗					
		アドレス	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/hospital/facility/					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子	
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌			
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	059-232-1111		(内線)			
		直通1			直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
				人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施						

OK

OK

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書等が設置されている場の名称	リボンズハウス						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	三重大学がんセンター リボンズハウス					
		アドレス	https://www.hosp.mie-u.ac.jp/ca-center/soudan/ribbons-house/					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載		その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図書		雑誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子	
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌			
			300冊以上		10種類以上			
			制限なし		制限なし			
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター	コピー機			
		設置あり		設置あり	設置なし			
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	059-232-1111	(内線)	5132			
		直通1		直通2				
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
		事務員	2	人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	実施						

OK

OK

診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 三重大学医学部附属病院

	年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	21	固形腫瘍合計	18
ALL	7	神経芽腫瘍群	1
AML	4	網膜芽腫	0
まれな白血病	0	腎腫瘍	0
MDS/MPDのうちCML	0	肝腫瘍	1
MDS/MPDのうちCMLを除く	2	骨腫瘍	1
Non-Hodgkin Lymphoma	4	軟部腫瘍	4
Hodgkin Lymphoma	0	胚細胞腫瘍	7
その他のリンパ増殖性疾患	0	脳・脊髄腫瘍	2
組織球症(HLH)	0	その他(診断名も記載すること)	甲状腺がん×2
組織球症(LCH)	3		
その他の組織球症	0		
その他の造血器腫瘍	0		
Down症TAM 登録	1		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 あり

病院名: 三重大学医学部附属病院
 時期・期間: 令和元年9月1日現在(研修会等の回数は平成30年1月1日～12月31日)

■ 研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	19	OK
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	10	
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	3	
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	4	
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	2	
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0	

■ 研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数: 4 OK

プログラム名	期間 例 2年	対象者 例 医師卒後 ○年～○年	H30 年度 (人)	R1 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先					プログラムの特徴
						自施設 (人)	自施設以外				
							大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外 の 総合病院 (人)	その他 (人)	
1 日本小児血液・がん専門医 研修プログラム(三重大学小 児科)	2年	医師卒後5 年～8年	2	3	14	3	0	1	10	0	小児血液・がん領域に関する幅広い知識と 十分な経験と技能を習得した医師を育成す る。
2 三重大学小児血液・がん短 期専門研修プログラム	1年	卒後5年～ 10年の小 児科専門医 取得者	1	1	3	0	0	0	3	0	小児血液・がん領域の臨床専門研修。
3 免疫学的小児白血病診断研 修プログラム	1～ 3ヶ月	小児科医あ るいは検査 技師	0	1	3	2	1	0	0	0	フローサイトメーターによる小児白血病の マーカー診断技術の習得
4 チャイルドドライブスペシャリス ト体験プログラム	1～ 3ヶ月	チャイルドライ ブスペシャリス トを目指す人 あるいは資格 取得後まもな い人	1	0	2	0	0	1	0	1	チャイルドドライブスペシャリストのプレパレ ーション等の実地体験実習
5											

相談支援センターの体制

記載の有無 あり
※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院
 時期・期間: 令和元年9月1日現在

相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

相談支援センターの名称		総合サポートセンター							
相談支援センターのメンバー									
職種	常勤／非常勤	専従／専任／兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況				中央機関 による研修	
				基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)			
1	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	24	受講	受講	受講	H20-110	未受講
2	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	16	受講	受講	受講	H21-430	受講
3	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	10	受講	受講	受講	10030320	受講
4	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	2	受講	受講	未受講		受講
5	看護師	常勤	専従(8割以上)	3	未受講	未受講	未受講		
6	看護師	常勤	専任(5割以上8割未満)	2	未受講	未受講	未受講		
7	医療心理に携わる者	常勤	専従(8割以上)	7	未受講	未受講	未受講		
8	医療心理に携わる者	常勤	専従(8割以上)	3	未受講	未受講	未受講		
9	医師	常勤	専従(8割以上)	8	未受講	未受講	未受講		
10	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	2	未受講	未受講	未受講		
11	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	0	未受講	未受講	未受講		
12	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	0	未受講	未受講	未受講		
13	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	0	未受講	未受講	未受講		
14	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	0	未受講	未受講	未受講		
15	精神保健福祉士	常勤	専従(8割以上)	0	未受講	未受講	未受講		

OK

●年間の相談総件数(平成30年1月1日～12月31日) 205 件
 上記1件あたりの平均対応時間 平均 30 分 最短 10 分 最長 100 分 中央値 30 分

OK

相談件数(令和元年6月1日～7月31日)

相談者	対面相談	電話相談	FAX相談	E-mail相談	計
1 自施設の患者・家族	78	1	0	0	79
2 他施設の患者・家族	0	0	0	0	0
合計	78	1	0	0	79

相談支援内容 ※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載する予定です。		相談支援の対象者
例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	経済的問題の解決、調整援助	自施設と他施設の患者・家族
2	療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助、退院援助(妊孕性、生殖温存、復学、就労など)	自施設と他施設の患者・家族
3	患者・家族の心理的ケア	自施設と他施設の患者・家族
4	終末期の在宅移行支援と訪問活動、終末期の在宅移行における他職種連携、終末期の在宅移行における地域連携	自施設と他施設の患者・家族
5	造血幹細胞移植後患者の生活支援	自施設と他施設の患者・家族

OK

相談支援センターの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 三重大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

相談支援センターの相談員など、相談支援センターの雰囲気が伝わる画像を貼付してください。
この画像は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載いたします。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙18を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ノータロ/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【必須】相談支援センターページの基本情報で掲載する画像を**「1枚」、上記の別添資料の有無に関わらず**提出してください。

※横長の写真の方が収まりがよいです。

※上記の別添資料と同じ画像でも構いませんが、写真ファイル名を**「別紙18相談支援センター画像」**として別に添付してください。

ファイル形式

JPEG

(PNG/JPEG/GIF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。



相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	総合サポートセンター							
2	問い合わせ先電話番号 <small>※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載</small>	代表	059-232-1111	(内線)	5152				
		直通1	059-231-5434						
		直通2							
		直通3							
3	対面相談の実施(実施/未実施) 予約の要否(必要/不要) 電話相談の実施(実施/未実施)	実施						OK	
		必要							
		実施						OK	
4	相談用の電話番号 予約の要否(必要/不要)	代表	059-232-1111	(内線)	5152				
		直通1	059-231-5434	直通2					
		必要							
		未実施						OK	
5	FAX相談の実施(実施/未実施) 相談用のFAX番号 <small>※半角英数で記載 ※代表番号は、直通番号がない場合のみ記載</small>	直通1		直通2					
		代表							
		未実施						OK	
		1							
6	電子メール相談の実施(実施/未実施) 相談用の電子メールアドレス <small>※半角英数で記載 ※個人のメールアドレスは記載しないでください</small>	2							
		(例) 精神保健福祉士		2	人	ソーシャルワーカー(上記以外)		1	人
		社会福祉士		10	人			人	
		看護師		2	人			人	
7	相談員の職種・人数 <small>※選択肢に含まれていない職種の場合は、その他の欄に直接記載</small>	精神保健福祉士		1	人			人	
		医師		1	人	その他			
		医療心理に携わる者		2	人	その他			
		ピアサポーターによる対応(実施/未実施)		実施					
6	具体的な活動内容	なごみサロン(患者同士の交流の場)等、リボンズハウスで開催しているプログラムにがんを経験された方にも参加いただいている。ピアサポートを希望された患者へサポーターを紹介している。						OK	
8	地域の患者会の情報提供の有無	あり						OK	
	提供可能な患者会の数	11							

<p>7 上記患者会の参加対象者の疾患名</p> <p>※特定の疾患の患者さんや家族を対象とした患者会が含まれている場合のみ記載 (例:乳がん、血液腫瘍、子どものがん、女性のがんなど)</p>	<p>乳がん、喉頭がん、膀胱がん、大腸がん、胃がん、小児がん、血液腫瘍</p>
--	---

小児がん患者団体との連携

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

団体総件数:

9

OK

小児がん患者団体との連携(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。

小児がん患者団体		具体的な連携の内容 (例: 月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)
No.	団体名	団体の参加対象者
1	がんの子どもを守る会東海支部	小児悪性疾患の治療経験のある患者とその家族 三重大学病院の講堂にて、年1回講演者を招き、小児がん治療の晩期合併症、小児がん患者の在宅医療、復学などをテーマに講演会を行う。あわせて、小児がんの治療、治療後の相談会も開催する。
2	三重大学小児科・おひさまキャンプ実行委員会	三重大学小児科医師、看護師、CLSおよび学生ボランティア 三重大学病院の講堂にて、年1回講演者を招き、小児がん治療の晩期合併症、小児がん患者の在宅医療、復学などをテーマに講演会を行う。あわせて、相談会も開催する。
3	三重大学小児科・どんぐりオータムキャンプ実行委員会	三重大学小児科医師、看護師、CLSおよび学生ボランティア 三重大学小児科のスタッフと、外来患者とその家族が日帰りデイキャンプに出かけ、患者家族と交流をはかり、様々な相談に応じる。また、キャンプには多くの兄弟姉妹も参加し、同胞の病気の理解、医療スタッフとの交流もはかっている。(年1回)
4	ひだまりの会(小児がんで入院した経験のある親の会)	小児悪性疾患の治療中、あるいは治療経験のある患者とその家族 三重大学病院内で、年4回、ひだまりの会の方が食事を作って、食事しながら、入院治療中の患者や家族の悩みや相談に応じる。
5	ひとと樹(小児がん経験者の会)	三重大学小児科で入院した小児がん経験者およびその関連者 小児がんを経験し、現在もさまざまな悩みを抱えて生活している経験者による経験者のための集まり(ピアサポート)。体験者同士の情報交換の場を2ヶ月に1回定期的に設けている。
6	続よんちゃんず	三重大学在学中あるいは卒業生によるボランティア 三重大学小児病棟プレイルームにて、レクレーション企画(工作、ゲーム大会、クッキングなど)を週1回行っている。また、夏祭り、ハロウィンなどの病棟行事を年数回、病院スタッフと協力して、企画・運営している。
7	日本ホスピタルクラウン協会	クラウン活動のスキルのある道化師 小児病棟に月に1回2-3名の道化師の方が訪問している。各病室を周り、患者、ご家族一人一人と遊んで、楽しいパフォーマンスをしている。
8	にじのかい(小児がん遺族の会)	小児悪性疾患で逝去された患儿家族 小児悪性疾患で逝去された患児のグリーフケアの一環としての相談会開催。
9	げんきのまど	中部テレコミュニケーション・げんきのまどプロジェクト担当者 小児病棟プレイルームにて、院外の娯楽施設とテレビ中継を大画面で行い、入院中でも外の空気と触れ合う機会を設ける。また、プレイルームでのレクレーション大会、クイズ大会なども開催。
10		

地域住民へのメッセージ

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 三重大学医学部附属病院

※本別紙は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」のがん診療連携拠点病院のページに掲載することを目的としています。
 ※各項目200字以内で記載してください。

1	<p>小児がん拠点病院としてのメッセージ</p> <p>(例) 当院は、すべてのがん患者さんの治療方針の決定を外科、腫瘍内科、放射線治療等複数の領域の専門家による「カンサーボード」によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めております。</p>
	<p>50年以上にわたり小児がんの診療、研究及び人材育成研修を行っています。当院ではすべての患者さんが最新最良の医療を受けられるように、適格な確定診断をもとに小児科、小児外科、放射線科、脳神経外科、病理診断部門等複数の専門家からなる「カンサーボード」を通じて十分な検討を行い、治療方針を決定しております。また、看護師、病棟保育士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、院内学級教員等の多職種連携チームによって小児がんのトータルケアを実践しています。</p>
2	<p>相談支援センターからのメッセージ</p> <p>(例) 医療ソーシャルワーカーが皆様のお話を伺い、一緒に考え、課題解決のお手伝いをさせていただきます。また、お話をお伺いし、専門の看護師やスタッフをご紹介させていただきます。</p>
	<p>医療福祉支援センターは、患者さん・ご家族の療養上の問題や困り事を当事者の方々とともに整理・検討し支援いたします。また、当センターでは多職種が支援に参加しています。</p>
3	<p>緩和ケアチームからのメッセージ</p> <p>(例) 緩和ケアチームには、長年緩和医療に携わっている経験を積んだ医師、看護師、薬剤師が含まれ、身体的な痛みを始め、患者さんの精神的苦痛を和らげるため、担当医と連携し、最善の医療を提供します。</p>
	<p>がんという生命を脅かす疾患にかかると、人は身体面だけでなく精神的な痛みや社会的な問題など様々な困難に直面します。当緩和ケアチームでは、医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、作業療法士など多職種のメンバーが、がん患者様とご家族の抱える問題を共に考え解決できるよう努めてます。がんになってもその人らしくその人が満足できるような生活を目指して私たちはサポートしていきます。</p>
4	<p>緩和ケア病棟からのメッセージ(※緩和ケア病棟が設置されている場合のみ記載してください。)</p> <p>(例) 緩和ケア病棟は、別棟となっており、全室から中庭に出ることが可能で、豊かな自然を感じて、充実した時間を過ごすことができます。</p>

臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

各部門のメンバー(個人情報を記載しないよう注意すること) メンバー総人数: 29 OK

例	各部門名	各部門のメンバーの専門性・職種
	事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室	薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジュ、生物統計家、事務担当
1	センター長、センター長補佐	センター長1名(専任教授)、センター長補佐2名(CRC1名併任、事務担当1名併任)
2	センター顧問(薬事)	薬事専門家2名(製薬企業開発部長、日本医療政策機構ユニット長)
3	臨床研究事務局部門	弁護士1名、事務担当5名
4	治験事務局部門	事務担当5名
5	臨床研究コーディネーター部門	CRC9名(薬剤師2名、看護師5名、臨床検査技師2名)
6	生物統計部門・データセンター	生物統計家1名(講師)、データマネージャー2名(助教1名、事務担当1名)、SE1名
7	モニタリング・監査部門	モニター1名(助教)
8	多施設連携研究支援室	事務担当1名
9	レギュラトリーサイエンス部門	弁護士1名(併任)
10		

臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

【臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口								
■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					担当している診療科が窓口となっている		OK	
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。								
窓口の名称								
1	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	小児がん臨床試験・臨床研究案内: 患者さん向け				
			アドレス	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/pediatrics/				
	電話		代表	059-232-1111	(内線)	6467		
			直通	059-231-5024				
■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					担当している診療科が窓口となっている		OK	
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。								
窓口の名称								
2	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	小児がん臨床試験・臨床研究案内: 医療機関向け				
			アドレス	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/pediatrics/				
	電話		代表	059-232-1111	(内線)	6467		
			直通	059-231-5024				

【臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口							
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					担当している診療科が窓口となっている		OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
1	窓口の名称		小児がん臨床試験・臨床研究案内:医療機関向け				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	小児がん臨床試験・臨床研究案内:医療機関向け				
		アドレス	http://www.hosp.mie-u.ac.jp/pediatrics/				
	電話	代表	059-232-1111	(内線)	6467		
直通		059-231-5024					
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					担当している診療科が窓口となっている		OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
2	窓口の名称		小児がん臨床試験・臨床研究案内:医療機関向け				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	小児がん臨床試験・臨床研究案内:医療機関向け				
		アドレス	http://				
	電話	代表	059-232-1111	(内線)	6467		
直通		059-231-5024					
【治験】の問い合わせ窓口							
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について					治験専用の窓口がある		OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
1	窓口の名称		臨床研究開発センター				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	患者様のページ「治験にご協力下さい」				
		アドレス	http://www.medic.mie-u.ac.jp/chiken/kannja/kanja8.html				
	電話	代表	059-232-1111	(内線)	5223		
直通		059-231-5246					
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					治験専用の窓口がある		OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
2	窓口の名称		臨床研究開発センター				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	患者様のページ「治験にご協力下さい」				
		アドレス	http://www.medic.mie-u.ac.jp/chiken/kannja/kanja8.html				
	電話	代表	059-232-1111	(内線)	5223		
直通		059-231-5246					

教育支援、復園・復学支援の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 三重大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

教育支援、復園・復学支援の状況について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙24を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

長期入院となる患児のため院内教室(小学生・中学生対象)を外来診療棟(100㎡)に設置し、小学部、中学部に分かれた教育が行われており、小・中学部合わせて2015年度24名、2016年度17名、2017年度13名、2018年度21名が通学している。三重県立かがやき特別支援学校教員の協力を得て、毎朝小児病棟での打合せ、医教連絡会議(月1回)、前籍校との連携・交流など小児病棟と院内教室の連携を行いながら、退院後スムーズに前籍校に復学できるための支援を行っている。

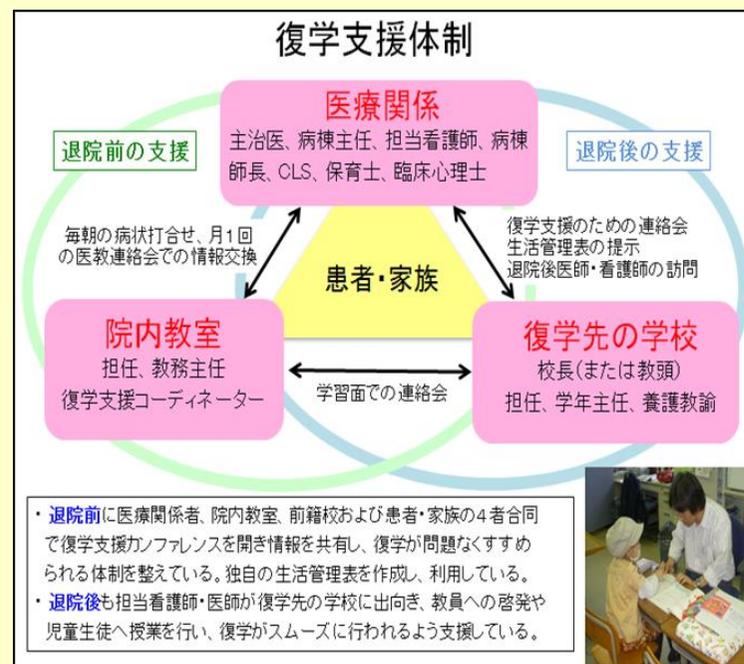
高校生に対しては、三重県立かがやき特別支援学校緑が丘校高等部の教員により、ベッドサイド又はティーンズルームにて行っている、原籍校とも連絡を入院時から取り、原籍校との遠隔授業(単位認定有り)を提供することもある。

2019年度から、三重県教育委員会事務局特別支援教育課より、学習支援アドバイザーが1名、入院中の学習計画などの相談対応をしている。毎週木曜日の午前中、相談日も設けている。

本学は総合大学であることから、医学部、教育学部学生のサークル活動として、チャイルド・ライフ・スペシャリストとともに幼児以上の入院患児を対象に、遊びを通じた療育及び教育を提供している。また、退院前には医療関係者、院内教室教員、前籍校教員および患児・家族の4者合同で、復学支援カンファレンスを行うなど、入院治療中の情報を共有し、復学を問題なく進められる体制をとっている。高校生に対しても、復学支援カンファレンスを医療関係者、特別支援学校教員、前籍校教員および患児・家族で設けており、高校生の復学をより不安なく進めるように体制を整えている。

退院後、必要な場合は、病棟あるいは小児トータルケアセンターの担当看護師・医師が復学先の学校に出向くなど、教員への啓発を行い、復学がスムーズに行われるよう支援を継続している。

なお、2015年5月に新しい外来診療棟が開設され、専用の相談室、トイレを備えた院内教室(113㎡)も新設され、小児病棟から直接9mの渡り廊下で通学できるなど、患児にとって利便性にも優れた院内教育施設が整備された。



長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備(調理スペース、ランドリー、プレイルーム等)、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**1枚におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙25を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

当院から徒歩5分のところに慢性疾患患児家族宿泊施設「三重ファミリールーム」(写真1)が設置されている。設置母体は、がんの子供を守る会・三重ファミリールーム運営委員会で、同委員会は、三重大学の小児科医、看護師、看護学科教員、親のメンバーより構成される。同施設は1998年度国庫補助金3,500万円で建設し、年間約200万円の運営費用は、三重県小児科医会、地域企業からの寄付で賄っている。施設の掃除、リネン類の交換は三重大学看護学科学学生ボランティアサークルが設立当初から継続して担当している。施設利用料金は、1泊1,000円で光熱費に充当している。同施設は、木造2階建てで個室4室と共同利用室(プレイルーム)からなり、各個室は1LDK、バス・トイレ・物干用ベランダがある。各個室には冷蔵庫、電子レンジ、ガスコンロ、エアコン、炊飯器、ポット、洗濯機、テレビ、ビデオ、空気清浄器が用意されている。施設設置後20年が経過したが、運営は順調で、利用者の多くは、県内遠隔地及び県外からの小児がん疾患、小児外科疾患、小児循環器疾患患者および家族となっている。

更に2施設目として、現状施設より広い1LDK2室を有する宿泊施設「三重大学病院ゲストハウス ハーモニーハウス」(写真2)を建設し、2014年10月より運営を開始した。同施設の建設費の殆どは、企業の寄附金により賄われた。利用対象は、本院に入院中あるいは通院中の小児患者及びその家族で、利用料金は患児及び小学生以下の家族は無料、中学生以上の家族は1泊1,350円/人(日帰り利用の場合は324円/人)となっており、光熱費・NHK受信料・寝具等利用の実費として負担いただいている。各戸にはエアコン、冷蔵庫、電子レンジ、IHクッキングヒーター、炊飯器、電気ケトル、調理器具、洗濯乾燥機、テレビ、空気清浄器等を備え、自転車の貸出も行っており、病院敷地内の利便性を活用し、患児及びその家族の宿泊の他、休憩やコミュニケーションの場及び退院前の在宅移行のための患児及び家族の訓練等にも利用されている。稼働状況は、今年度では2018年5月の100%の稼働率を筆頭として、毎月頻繁に利用されており、大学職員が施設の掃除、リネン類の交換等を定期的に行い、利用者が快適にかつ気持ちよく過ごせるよう努めている。利用者の状況としては再利用者が多いことから、施設・設備・料金設定等への理解が得られているものと考えられる。



写真1



写真2



PDCAサイクルについて

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名:

時期・期間:

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

①院内の見やすい場所に掲示している	<input type="text" value="はい"/>	(はい/いいえ)
②院内誌、チラシ等で広報している	<input type="text" value="はい"/>	(はい/いいえ)
③ホームページに掲載している	<input type="text" value="はい"/>	(はい/いいえ)
④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください	<input type="text" value="https://www.hosp.mie-u.ac.jp/ca-center/"/>	
⑤地域の広報誌等で広報している	<input type="text" value="いいえ"/>	(はい/いいえ)
⑥その他の方法で掲載している	<input type="text" value="いいえ"/>	(はい/いいえ)
⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください	<input type="text"/>	

OK
OK
OK

OK
OK

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3か月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	1年に1回、日を設定して患者アンケートを行う。
2 がん診療プロセスにおける質評価	各診療科におけるがん診療プロセスの向上	1年に1回、研究班の調査表に回答してフィードバックを受ける。
3 グリーフケアの質の向上	小児がん子どもを亡くしたご家族の課題整理と社会支援の評価	年1回のグリーフケア「にじのかい」及び事例毎の振り返りの会を通して、患者・家族の意思決定への寄り添い方を整理する
4 ヒアサポートの連携強化	小児がん経験者間のQOL向上	年1回、小児がんキャンプ、ひとときの樹の会などを通して、小児がんサバイバーの課題を整理し、相談窓口へフィードバックする
5 緩和ケアチーム介入の質の改善	除痛率の向上、患者満足度の高いケアの提供	オピオイド使用量の推移、依頼件数と依頼内容、

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	11月にがん診療質評価班が作成したPDCAサイクル調査表を用いた調査に参加する。
2	11月に開催されるがん相談部会において、各施設の現状把握と課題の報告を行う。
3	
4	
5	

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙26を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 (あり/なし)

ファイル形式 (ワード/ノータブ/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

緩和ケア:
数的評価

① チーム活動のとりまとめと統計
年間依頼数、依頼内容と件数、介入内容と件数、各診療科・病棟ごとの依頼数、転帰を集計。

② がんセンター年報での報告、緩和ケアセンター関係者会議への報告とフィードバック

③ 三重県がん診療連携協議会緩和ケア部会での共有とフィードバック

質的評価

① 緩和医療学会による緩和ケアチーム活動セルフチェックプログラムへの参加→全国との比較検討

② 県内拠点病院等間でのピアレビューによるチェックとフィードバック

医療安全体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 三重大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全管理部				
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー						
職種	常勤/非常勤	専従/専任/兼任	人数	うち、医療安全対策に係る研修を受講した者の人数		
1 医師	常勤	専従	1	1		
		専任	1	1		
		兼任	1			
	非常勤	専従				
		専任				
		兼任				
2 薬剤師	常勤	専従	1	1		
		専任				
		兼任	1	1		
	非常勤	専従				
		専任				
		兼任				
3 看護師	常勤	専従	2	2		
		専任				
		兼任				
	非常勤	専従				
		専任				
		兼任				
4 その他	常勤	専任(5割以上8割未満)	1			
5						
6						
7						
8						
9						
10						

OK

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		総合サポートセンター		総合サポートセンター	
電話	直通				
	代表	059-232-1111	(内線)		

OK